

waiwai 通信 ～子どもの「なぜ？」にお答えします～ vol.1

☆ かみつきはなぜ起こる？ ☆

1歳前半から芽生えた「自分という心（自我）」は、1歳後半から2歳にかけて大きくなり、1歳児の頭の中は「自分で」「自分が」「自分の」という気持ちでいっぱいになります。つまり、「何でも自分でやりたい」「何でも独り占めして自分の物にしたい」という気持ちが強くなります。

その一方で、友達への興味も深まり、関わりを持とうとする時期でもあります。しかし、友達と同じことをして楽しむ中で、玩具を取られた、叩かれたなど自分の思い通りにいかないことがあると、不快な感情が心に満ちていきます。噛みつきは、この不快な感情が心の中で爆発した時に起こる本能的な反射的な行為です。

子どもが噛み付く前に、大人が子どもの気持ちを切り替えることで、噛みつきは回避できます。好きな事・興味のある事に意識が向くと、心の中に渦巻いていた不快な感情は一瞬にして消え、次の遊びに移ることができます。

噛みつきは10ヶ月間程度で終わると言われています。その期間に子どもは、噛みつきは社会的に容認されない行為であることを知り、自分の行動をコントロールする術を身につけていくのです。嫌なことがあったら大人に助けを求める、言葉で相手に伝える、別の遊びをするなどその対応の仕方は子どもによって様々ですが、いくつかの選択肢を持って自分に都合の良い方法を選択するようになります。その時期が来ると噛みつきはパッタリとなくなります。

噛みつきが多発している場合は、その行為を叱るだけでなく、噛みつきを未然に防ぐような関わりを心掛けましょう。噛みつきが起こりそうだと感じたら、子どもの曇った心が一瞬で晴れるような楽しい遊びを提案するようにし、大人も一緒になって遊びを楽しんであげてください。

